

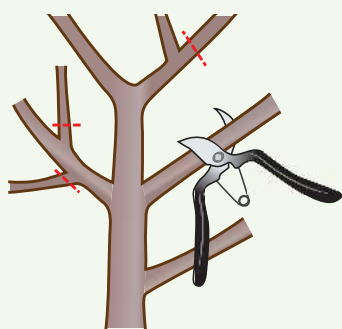
果樹の枝幹性病害の予防と治療に！
幹や枝の傷口や剪定の切り口の保護・ゆ合促進にも！

トップジンM[®]ペースト

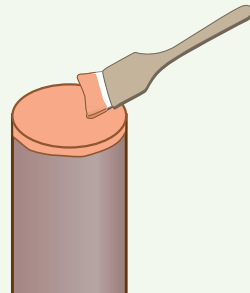
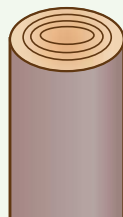


上手な使い方

剪定・整枝後の処理



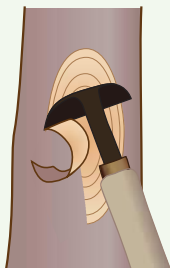
切り口にトップジン M ペーストを付ける



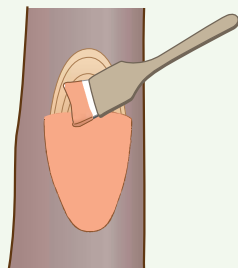
ハケで丁寧に塗り広げる

胴枯れ・枝枯れの病患部の処理

【病患部が大きいとき】

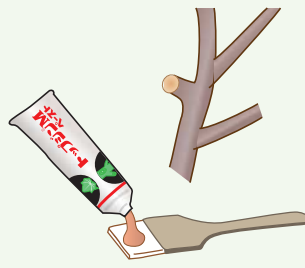


大型ナイフで、
病患部を大きめに
完全に削り取る



削りとったあとより
大きめに、ペーストを
十分ハケで塗る

【病患部が小さいとき】



細い枝や、病患部が下側で
処理しにくい場合、ハケに
ペーストを適量つけて塗る



削りとったあとにペーストを
適量つけてからハケで
よく広げる

※上図は中栓を外した使用例です。この場合、薬量が多く出ますので手や衣服を汚さないように注意してください。また、中栓をつけたままでは薬量は少なく出ます。

■適用病害と使用方法

※印は収穫物への残留回避のため、本剤及びチオファネートメチルを含む農薬の、総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害名・使用目的	希釈倍数	使用時期	総使用回数*		使用方法	
				本剤	チオファネートメチル		
もも	切り口及び傷口のゆ合促進	原液	剪定整枝時、病患部 削り取り直後、 及び病枝切除後	10回	塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は6回	塗布	
りんご	腐らん病 輪紋病		剪定時及び 病患部削り取り直後	10回	塗布は3回 灌注は1回 散布は6回		
なし	切り口及び 傷口のゆ合促進		剪定整枝時、病患部 削り取り直後、 及び病枝切除後	3回	11回		塗布は3回 休眠期の散布は1回 灌注は1回 生育期の散布は6回
	胴枯病、輪紋病 黒斑病、腐らん病 紅粒がんしゅ病		剪定整枝時及び 病患部削り取り直後				
かき	切り口の枯込防止		剪定整枝時	10回	塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は6回		
マルメロ かりん	切り口及び 傷口のゆ合促進		剪定整枝時、病患部 削り取り直後、 及び病枝切除後	9回	塗布は3回、散布は6回		
いちじく				14回	塗布は3回、灌注は6回 散布は5回		
かんきつ	幹腐病 切り口の枯込防止		剪定整枝時	8回	塗布は3回 散布、空中散布及び 無人航空機散布は合計5回		
キウイフルーツ				8回	塗布は3回、散布は5回		
おうとう				6回	塗布は3回、散布は3回		
小粒核果類	切り口及び 傷口のゆ合促進		剪定整枝時、病患部 削り取り直後、 及び病枝切除後	3回	7回		すももは6回 塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は3回 その他の小粒核果類は6回 塗布は3回、散布は3回
							びわ
ぶどう	晩腐病 つる割病	3倍	休眠期(萌芽前)	5回	塗布は3回 休眠期の散布は1回 生育期の散布は1回	木口に塗布	
オリーブ	切り口及び 傷口のゆ合促進		剪定整枝時、病患部 削り取り直後、 及び病枝切除後	5回	塗布は3回、散布は2回		
オリーブ(葉)				3回			
くり	胴枯病		病患部削り取り直後	7回	塗布は3回、散布は4回		
果樹類*	切り口及び 傷口のゆ合促進		剪定整枝時、病患部 削り取り直後、 及び病枝切除後	3回			
樹木類、ばら				5回			
漬物用すいか きゅうり、すいか まくわうり	つる枯病	原液	発病初期	5回	種子への処理は1回 は種後は5回		
				メロン	1回		5回
きり	腐らん病		剪定整枝時及び 病患部削り取り直後	5回			
さくら	てんぐ巣病		病枝切除後	5回			
ぶな(伐倒木)	クワイカビ類 による木材腐朽		伐倒直後	1回			

*りんご、なし、かき、もも、マルメロ、かりん、いちじく、かんきつ、キウイフルーツ、おうとう、小粒核果類、びわ、ぶどう、オリーブ、くりを除く

△効果・薬害などの注意

- 1kg は使用直前によく攪拌し、刷毛等の適切な塗布用具を用いて塗布してください。また、200g チューブの場合、原液をチューブから直接または刷毛などで塗布してください。
- りんご腐らん病の治療に使用する場合、病斑を見つけ次第病患部を大きめに完全に削り取り、その傷あと及びその周辺に十分に塗布してください。また、剪定整枝時や、環状はく皮などによる切り口に予防的に塗布してください。
- なしの胴枯病・紅粒がんしゅ病・輪紋病・腐らん病、くり胴枯病、きりの腐らん病の治療に使用する場合、病斑をみつけ次第、病患部を大きめに完全に削り取り、その傷あと及びその周辺に十分に塗布してください。
- ぶどうの晩腐病に使用する場合は、結果母枝を主体に塗布してください。
- ぶどうに対し、萌芽後に使用すると生育遅延を生ずるおそれがあるので、必ず萌芽前に使用してください。
- さゆり、すいか、まくわうりに使用する場合は主茎の基部(地ぎわから10cm~20cm)や病患部に1週間間隔で2~3回塗布してください。この場合、病患部をあらかじめ削り取ってから塗布すると一層効果的です。
- さくらのでんぐ巣病に使用する場合は、病葉の発生している枝を健全部で切除し、その切り口に十分塗布してください。
- ぶな丸太の防菌に使用する場合は、伐倒後24時間以内に木口に十分塗布してください。なお、本剤による防菌効果は2か月後までであり、それ以後の効果は期待できないので留意してください。
- 壺に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 使用後の刷毛等の用具はそのまま放置せず、水でよく洗っておいてください。
- 自動車、壁などの塗表面、大理石、御影石にかかると変色するおそれがあるので、かからないようにしてください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用の場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△安全使用上の注意

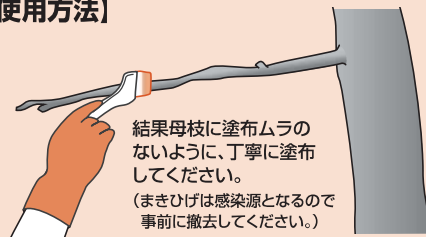
- 眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後(少なくとも使用当日)に、小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう、縄囲いや、立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 保管：密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない涼涼な所に保管してください。
- 包装：1kg×12本、(200g×10本)×5箱
- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきってください。

ワンポイントアドバイス

ぶどうの晩腐病防除に! 休眠期(萌芽前)3倍液塗布処理

【希釈方法】

【使用方法】



●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

この資料は2022年2月現在の登録に基づいて作成しています。

